



雪道に備えよう

昨年2月、17年ぶりの大雪となり、雪道にはまって立ち往生した方、凍結した路面で怖い思いをした方もいらっしゃるのではないのでしょうか。雪道での危険箇所を知り事前に準備することで防げる事故もあります。そこで、JAF石川支部推進課事業係の元谷公一さんに機関紙企画検討委員の加賀さんと丸川さんが雪道への備えを教えてくださいました。

雪道ドライブのきほんの「き」



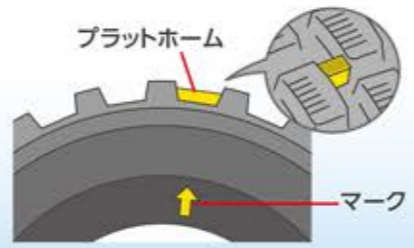
降雪前だけでなく、凍結しそうなきにもワイパーは立てておきましょう。フロントガラスが凍るとワイパーが窓に張りつくのでゴム部分の劣化が進みますよ。フロントガラスに積もった雪を無理やりワイパーで取り除こうとしないでください。負荷がかかりすぎてワイパーが壊れることも。

準備しておく安心な雪道ドライブグッズ

- [軍手]** (Gloves)
- [長靴]** (Tall boots)
- [懐中電灯]** (Flashlight): 雪道のトラブルは、昼間だけでは限りません。
- [スコップ]** (Shovel): 軽くて硬いアルミ製のものがおすすめ。
- [車用屋根雪下ろし&スクレーパー]** (Car roof snow remover & scraper)
- [解氷]** (De-icing): タンク内の液が半分以下であれば補充。容器に記載の希釈目安を参考に濃度を高めて冬対策。水だと余計に凍ってしまうので危険。
- [解氷スプレー]** (De-icing spray): 鍵穴やフロントガラスの凍結に利用できます。外出先や忙しい朝の短時にも。
- [砂]** (Sand): 雪にはまってタイヤが空転したときに、滑り止めの砂を使うと脱出できることも。
- [防寒着]** (Winter clothing): 立ち往生など万が一に備えてブランケットなど暖を取れるものがあると安心。車移動の多い北陸では防寒着を持たずに外出する人も！

スタッドレスタイヤの状態を確認

スタッドレスタイヤは低温でも固くなりにくいゴムで作られていて、雪上や氷上でも摩擦力を生み出すよう設計されています。経年劣化しやすいのでゴムの状態を確認することが大切です。タイヤの溝の半分位置に「プラットフォーム」と言われる突起があり、これが出てくると交換のサインです。雪がない路面では、スタッドレスタイヤではノーマルタイヤと比較して停止までの距離が長くなるので注意しましょう。



雪道以外ではスタッドレスタイヤの方が止まりにくいことに驚きました。車間距離を取り、早めのブレーキを心がけます！



雪道にはまったときどうすればいいの？ (基本編)



- ①ハザードランプを出し三角表示板を置き、周囲に知らせることで自身の安全を確保する。車の状況を確認し、どこがはまっているのか確かめる。(一般的に駆動輪がはまることが多いので自分の車の駆動輪を知っておきましょう。)
 - ②スコップで周囲の雪を除け、路面を踏み固める。
 - ③じんわり、ゆっくりとアクセルを踏み、緩やかに加速する。状況により砂をまくか、駆動輪に脱出プレート(市販品)をかませる。
 - ④それでも脱出できない場合は、JAFなどのロードサービスに連絡し救助を待つ(無理は禁物です)。
- 車によってはトラクションコントロール(空転防止)装置のスイッチを切る必要がある場合もあります。



雪道で事故を起こさないために

雪道は滑りやすいとは分かっているけど、ついついいつもどおりに運転してしまいがちです。発進、加速、停止、すべての段階で「急」のつく運転は禁物です。急発進、急加速、急ハンドル、急停止は、車両の姿勢を崩すきっかけになってしまいます。気持ちと時間に余裕を持ち、速度を抑え十分な車間距離を取り、常に危険を予測するように心がけましょう。



冬の道、ここが危険!!



路面は黒いけど止まらない! ブラックアイスバーンとは?



ブラックアイスバーンとは一見濡れた路面に見えるのですが、実際は薄い氷が張っている凍結路面です。Aがブラックアイスバーンの路面です。路面が黒光りして見えたら要注意。冷え込む夜間や朝方、日陰などは特に注意。ブラックアイスバーンに気付いた時は落ち着いてゆっくり速度を落とすようにしましょう。